

(別添 2)

No.	2
策定年月	令和3年4月
見直し年月	令和 年 月

## 麦・大豆産地生産性向上計画 相馬市産地

作成主体：相馬市地域農業再生協議会

### 1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

相馬市は、全耕地面積に対して主食用米の作付割合が約5割を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

また、実需と密接に連携し、需要が拡大基調である品種へ生産を移行していくとともに、排水対策、土づくり、適期作業の励行を図り、単収・品質の安定を実現する。

現在、相馬市においては、人・農地プランや水田フル活用ビジョンにより水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

#### ○麦

麦については、本地域で生産している品種きぬあずまは、全量(106トン)が製麺用として、ゆきちからは全量(5トン)が製パン用として、さとのそらは全量(4トン)が製麺用として、主に全農に出荷している。

主力の小麦品種「きぬあずま」は、年々需要が減少し、生産と販売停滞のミスマッチが生じている。このため、近隣市町村においても作付が多く、広域的に流通されている品種への転換を検討し、需要に応じた品種の導入・作付拡大が必要となっている。

#### ○大豆

大豆については、本地域で生産している品種タチナガハ(18トン)及び里のほほえみ(17トン)を加工用原料として、主に全農に出荷している。

実需者需要が多く、収量・品種特性に優れた「里のほほえみ」の生産が増加している。従来品種「タチナガハ」は県内加工業者から固定の需要がある。

### (2) 生産における現状と課題

近年、麦及び大豆の作付面積の大部分で、地力低下抑制のためブロックローテーションに取り組んでいるが、ブロックローテーション範囲内での麦及び大豆の作付け面積が頭打ちになっており、作付け拡大が難しい状況となっている。

また、担い手への農地の集約が急速に進み、1農家あたりの作業負担増加による適期作業の逸失等が起こっている。

さらに、排水不良も単収が伸びない要因となっており、改善が必要となっている。

令和元年産については、飯豊地区において令和元年東日本台風の影響を大きく受け、生産量が減少している。

麦及び大豆のどちらも、販売収入は低額で、主な収入は国等の補助金のみという状況である。

### (3)実績

#### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	きぬあずま	25	31	39	524	465	272	131	144	106
	ゆきちから			1			500			5
	さとのそら			1			400			4
作物計		25	31	41	524	465	280	131	144	115

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年度	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年度	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年度	令和2年産(現状)
大豆	一括	106	122	98	175	29	169	185	35	166
作物計		106	122	98	175	29	169	185	35	166

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

## ② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	きぬあずま	-	-	-	-	36	92.3%	
	ゆきちから	-	-	-	-	1	100.0%	
	さとのそら	-	-	-	-	1	100.0%	
作物計		-	-	-	-	38	92.7%	

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産(現状)		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	一括	-	-	-	-	91	92.9%	
作物計		-	-	-	-	91	92.9%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

## ③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

福島県では「団地」は概ね3ha以上(中山間地域では概ね2ha以上)のまとまりとし、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地としているが、当該地域においては、ブロックローテーションを採用している耕作者が多く、まとまった面積が変動するため、3haを「2ha」、及び隣接する農地を「栽培管理が一体的に行われ、かつ一連の農作業を継続するのに支障がない、可能な限り隣接する2ha以上の農地」として、団地化率を算出する。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。